

平成 22 年 5 月 11 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19320098

研究課題名（和文）前近代東アジアにおける文書とその伝来過程に関する比較史的研究

研究課題名（英文）A Comparative Study of the Documents in East Asia before Modern Age

研究代表者

坂上康俊（SAKAUE YASUTOSHI）

九州大学大学院・人文科学研究院・教授

研究者番号：30162275

研究代表者の専門分野：日本史

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：文書 東アジア 比較史

## 1. 研究計画の概要

前近代東アジアの諸国、特に中国・朝鮮・日本における文書の様式の系譜的研究及び残存の様態の比較史的研究について、

（1）各国における研究の流れを整理し、また（2）各国の古文書研究者の討議を通じて様式の系譜と伝来状況の相違の背景を探る。

## 2. 研究の進捗状況

（1）これまで三カ年に渡り、国内のみならず中国社会科学院・韓国学中央研究院・韓国国史編纂委員会等の第一線の文書研究者を招聘し、初年度には国際シンポジウム「文書から見た東アジアの戦争と外交—モンゴル・元を中心に—」を、二年目・三年目にはそれぞれ国際ワークショップ「前近代東アジア文書の比較史的研究」「文書のかたち」を開催し、予稿集をまとめてきた。

（2）前近代東アジア諸国における文書に関するこれまでの研究を網羅した文献目録を、地域・時代を分けて作成しつつあり、既に日本中世、前近代朝鮮、中国の宋～清に関しては、ほぼまとめることができた。

（3）紙の文書のみならず、宋・元時代の石碑等の金石文についても現地調査を実施し、さらに日本古代・中国晋代・韓国百濟・新羅出土木簡については、釈読や再解釈等の研究を進めた。これらの成果の一部は、国内外における学会での口頭報告や論文等の形で公表している。

以上の研究を通じて、たとえば、いわゆるモンゴルの威嚇文言の再検討を通じた日元交渉の具体相や、文書様式名の比定を基礎とした高麗における唐公式令文書様式の継受の状況等が明らかにされ、また日本の文書の

内容あるいは木簡の形態から見た韓国出土木簡の特質についても議論が深化した。総じて中国から文書行政の骨格が東アジア諸国に伝播する過程と、その過程における変容の状況を明らかにしつつある。

## 3. 現在までの達成度

③おおむね順調に進展している。

（理由）

様式論・系譜論の方面からの取り組みが順調に進んでおり、伝存様態の比較史的研究については、検証は極めて困難であるものの、幾つかの仮説が用意されつつある。

## 4. 今後の研究の推進方策

最終年度を迎え、文献目録の完成を目指すとともに、通常の研究会に加え、これまでの研究を踏まえた国際ワークショップを開催する。その間、最終確認のための史料調査、及び成果報告のための学会報告の機会を持つ。

## 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 58 件）

① 船田善之「元代漢文公文書の現状及其研究文献」『西夏学』4号、pp. 84-89、2009年、査読有り② 中島楽章「元代の文書行政におけるパスバ字使用規定について」『東方学報』84冊、pp. 91-138、2009年、査読有り

〔学会発表〕（計 50 件）

- ① 四日市康博「ユーラシア交易圏からアジア間交易圏へ」第 54 回国際東方学会議、2009 年 5 月 15 日、東京・日本教育会館
- ② 森平雅彦「交戦期における高麗とモンゴルの往復文書をめぐって」九州史学会大会、2007 年 12 月 8 日、福岡・九州大学

〔図書〕（計 4 件）

- ① 中島楽章『徽州商人と明清中国』山川出版社、2009 年、90 頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕